



ポリシーを使用したスマート ライセンシングへの移行

SLPにアップグレードするには、製品インスタンスのソフトウェアバージョン（イメージ）をサポートされているバージョンにアップグレードする必要があります。

はじめる前に

「[アップグレード](#)」の項を必ず読み、SLPによって以前のすべてのライセンスモデルのさまざまな面がどのように処理するかを理解してください。

従来のライセンスモデルから SLP に移行すると、ライセンスの変換が自動的に行われます。この Device Led Conversion（DLC）プロセスは、アップグレード中にデバイスで従来のライセンスが検出されたときにトリガーされます。DLC 要求はライセンス レポートの一部として CSSM に送信され、完了するまでに最大で 1 時間かかる場合があります。

スイッチソフトウェアのアップグレード

アップグレードの手順については、対応するリリースノートを参照してください。一般的なリリース固有の考慮事項がある場合は、対応するリリースノートに記載されています。

移行シナリオの `show` コマンドの出力例も以下で参照してください。比較のために、移行前と移行後の出力例を示します。

- [スマート ライセンシングからポリシーを使用したスマート ライセンシングへ](#)（1 ページ）

スマート ライセンシングからポリシーを使用したスマート ライセンシングへ

次に、スマート ライセンシングから SLP に移行する Cisco Nexus 3550-T、リリース 10.2(3t) スイッチの例を示します。これはアクティブとスタンバイを含む高可用性セットアップの例です。

`show` コマンドは、移行の前後に確認すべき以下の重要なフィールドを抽出して出力します。

表 1: スマートライセンスからポリシーを使用したスマートライセンスへ : **show** コマンド

| アップグレード前 | アップグレード後 |
|---|---|
| <p>Cisco NX-OS リリース 10.1(2t) ではサポートされていません。</p> | <p>show license summary (SLP)</p> <pre>Device# show license summary License Usage: License Entitlement tag Count Status ----- NX-OS essentials licens... (NXOS_ESSENTIALS) 1 IN USE</pre> <p>[Status] フィールドに、ライセンスについて、登録済みおよび承認済みではなく [IN USE] と表示されます。</p> |
| <p>Cisco NX-OS リリース 10.1(2t) ではサポートされていません。</p> | <p>show license usage (SLP)</p> <pre>License Authorization: Status: Not Applicable (NXOS_ESSENTIALS): Description: NX-OS essentials license for Nexus 3550-T Count: 1 Version: 1.0 Status: IN USE Enforcement Type: NOT ENFORCED License Type: Generic</pre> <p>ライセンス数は変わりません。</p> <p>[Enforcement Type] フィールドに NOT ENFORCED と表示されます。(Cisco Nexus スイッチには、輸出規制ライセンスや適用ライセンスはありません)。</p> |

| アップグレード前 | アップグレード後 |
|--|----------|
| Cisco NX-OS リリース 10.1(2t) ではサポートされていません。 | |

| アップグレード前 | アップグレード後 |
|----------|---|
| | <p>Show license status (スマートライセンス)</p> <p>Device# show license status</p> <p>Utility: Status: DISABLED</p> <p>Smart Licensing using Policy: Status: ENABLED</p> <p>Data Privacy: Sending Hostname: yes Callhome Hostname Privacy: DISABLED Smart Licensing Hostname Privacy: DISABLED Version Privacy: DISABLED</p> <p>Transport: Type: CSLU Cslu address: cslu-local</p> <p>Policy: Policy in use: Merged from multiple sources Reporting ACK required: Yes Unenforced/Non-Export: First report requirement (days): 90 (Installed) Ongoing reporting frequency (days): 365 (Installed) On change reporting (days): 120 (Installed) Enforced (Perpetual/Subscription): First report requirement (days): 30 (Installed) Ongoing reporting frequency (days): 90 (Installed) On change reporting (days): 60 (Installed) Export (Perpetual/Subscription): First report requirement (days): 30 (Installed) Ongoing reporting frequency (days): 30 (Installed) On change reporting (days): 30 (Installed) Miscellaneous: Custom Id: <empty></p> <p>Usage reporting: Last ACK received: Jul 29 11:32:24 2022 UTC Next ACK deadline: Jul 29 11:32:24 2023 UTC Reporting push interval: 30 days Next ACK push check: Aug 3 07:29:15 2022 UTC Next report push: Aug 28 11:22:24 2022 UTC</p> |

| アップグレード前 | アップグレード後 |
|---|---|
| | <p>Last report push: Jul 29 11:22:24 2022 UTC Last report file write: <none></p> <p>Trust Code installed: <none></p> <p>[転送 : (Transport:)]field : 特定の転送タイプが設定されたため、アップグレード後もその設定が保持されます。</p> <p>Policy: ヘッダーと詳細 : スマートアカウントまたはバーチャルアカウントでカスタムポリシーを使用できます。これは製品インスタンスにも自動的にインストールされます。(信頼を確立した後、CSSM はポリシーを返します。その後、このポリシーが自動的にインストールされます)。</p> <p>[使用状況のレポート : ヘッダー : 次回のレポート プッシュ : (Usage Reporting: header: The Next report push:)]フィールドには、製品インスタンスが次の RUM レポートを CSSM に送信するタイミングについての情報が表示されます。</p> <p>[インストール済みの信頼コード : (Trust Code Installed:)]フィールド : ID トークンが正常に変換され、信頼できる接続が CSSM で確立されたことを示します。</p> |
| <p>Cisco NX-OS リリース 10.1(2t) ではサポートされていません。</p> | <p>show license udi (スマート ライセンシング)</p> <pre>Device# show license udi UDI: PID:N35-T-48X,SN:EXATRI-A-01828 HA UDI List: Active: PID:N35-T-48X,SN:EXATRI-A-01828</pre> |

移行後の CSSM Web UI

<https://software.cisco.com> で CSSM Web UI にログインし、[Smart Software Licensing] をクリックします。[インベントリ (Inventory)] > [製品インスタンス (Product Instances)] の順に選択します。

スマートライセンス環境で登録されたライセンスは、製品インスタンスのホスト名と共に [Name] 列に表示されていました。SLP にアップグレードすると、製品インスタンスの UDI と共に表示されるようになります。移行したすべての UDI が表示されます。次の例を参考にしてください。

PID:N35-T-48X、UDI_SN:EXATRI-A-01828。

アクティブな製品インスタンスの使用状況のみがレポートされるため、PID:N35-T-48X,SN:EXATRI-A-01828 の [ライセンス使用状況 (License Usage)] にはライセンス使用情報が表示されます。

図 1:スマートライセンスからポリシーを使用したスマートライセンスへ：移行後のアクティブおよびスタンバイ製品インスタンス

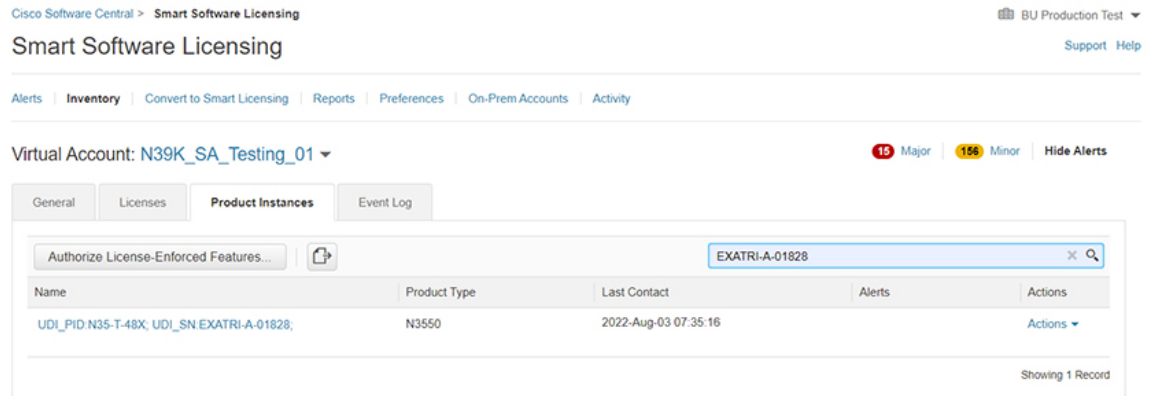


図 2:スマートライセンスからポリシーを使用したスマートライセンスへ：アクティブな製品インスタンスでのUDIとライセンス使用状況

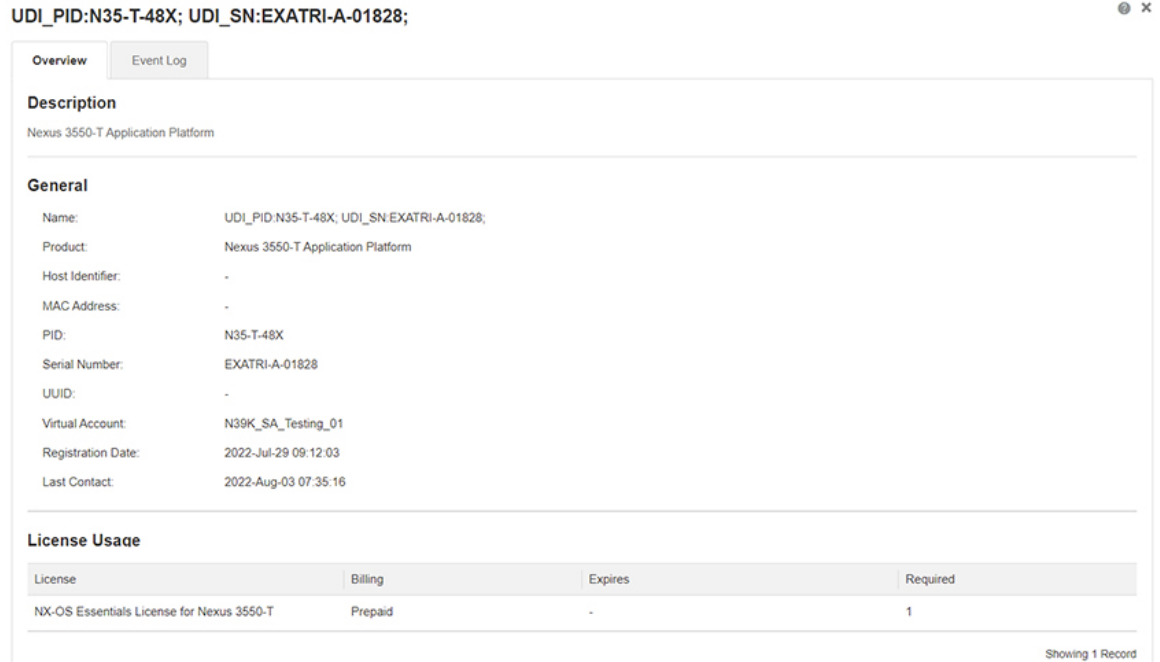


図 3: スマート ライセンシングからポリシーを使用したスマート ライセンシングへ : アップグレード後に表示される **DCN NDB/RTU** ライセンス

| Product Instance | Product Type | Licenses used |
|---|--------------|---------------|
| UDI_PID:N35-T-48X, UDI_SN:EXATRI-A-01828, | N3550 | 1 |

Showing 1 Record

移行後のレポート

製品インスタンスは、ポリシーに基づいて次の RUM レポートを CSSM に送信します。

より頻繁にレポートを作成するようにレポート間隔を変更する場合は、製品インスタンスで **license smart usage interval** コマンドを設定します。シンタックスの詳細については、対応するリリースのコマンドリファレンスで **license smart (global config)** コマンドを参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。